

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南オクトーバーフェスト

恒例の湘南オクトーバーフェストを開催します
完全予約制です、お早目にお申し込み下さい

日時 9月23日(日) 18:30開演(開場18:00)

会場 グランドホテル湘南

会費 6,000円(お一人様)

出演 エーデルワイス・トリオ 合唱団アムゼル他

なお、お申し込みは9月19日までに電話で事務局(0466-26-3028)へ、お支払いは当日受付でお願い致します。

♪♪ 歌で楽しむドイツ語 (右記参照)

第1回(9月9日)は オクトーバーフェスト
で歌う歌を練習しました。第2回は10月14

(日)です。懐かしいドイツ民謡もまたクリスマスの歌も予定しています。ドイツ語の初めての方、

特に音楽の知識・経験の無い方も大歓迎です。お待ちしております。

問合せ・申し込み

木原 電話 0466-28-9150

メール jdgs@jcom.home.ne.jp

ドイツ語講座ご案内 (10月開講)

クラス:[初級] 土曜日 11:15~12:45

講師:小笠原藤子、Dagmar Kunst

[中級・会話] 土曜日 9:30~11:00

講師:小笠原藤子、Dagmar Kunst

[中級・講読] 土曜日 10:00~11:30

講師:松野義明

会場: 藤沢カトリック教会

受講料:43,000円(20回)

湘南日独協会会員には割引特典があります

[申込・お問い合わせ先]

松野: TEL0467-32-7300 FAX 0467-32-7387

e-mail: matsunoy@kamakuranet.ne.jp

新入会員紹介

(敬称略)

石川 忠敬 中村 裕子 中村 由紀

湘南日独協会の活動予定

■湘南オクトーバーフェスト (詳細左記)

■Singen Wir zusammen! (左記参照)

第2回♪♪ 歌で楽しむドイツ語 ♪♪

日時 10月14日(日) 15:00~16:30

会場 江ノ電第2ビル 4F 湘南アカデミア

■10月懇話会

「仕事で接したドイツ企業・ドイツ体験」

スピーカー:三谷喜朗氏(会員:理事)

長年関わられたドイツとドイツ企業についての体験をドイツ語での苦労話も交えて縦横に語ります

日時 10月27日(土) 18:00~20:00

会場 江ノ電第2ビル地下1階「七福」

会費 1,000円(飲食代金は別料金)

■かまくら国際フェスティバル2012

日時 10月28日(日) 10:00~15:00頃

会場 高德院(鎌倉大仏)

鎌倉市などで活動している国際交流団体が参加する交流フェスティバルです。当協会は恒例のソーセージ模擬店とアンサンブル・ダンクシェーン(会員鬼久保洋治氏と仲間達)によるアルプホルンの演奏で参加します。プログラムをご希望の方は同封のハガキでお申し込み下さい。

■第83回例会 講演会

「グリムこぼれ話」

講師 橋本孝氏

(日本グリム協会会長・栃木日独協会会長)

今年はグリム童話の初版から200年の記念の年に当たり世界中で記念行事が開催されています。グリムに関しての第一人者である橋本氏をお招きして、グリム兄弟と19世紀、グリム兄弟と日本等、普段あまり聞くことの出来ない講演です

日時 11月25日(日) 14:00~15:45

会場 江ノ電第2ビル7F 湘南アカデミア

会費 1,000円

懇親会 講演終了後別会場、別会費

■望年会(予定)

日時 12月15日(土) 18:00~

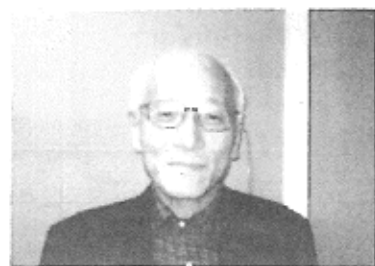
会場 ホテル向陽 詳細決まり次第お知らせ致します

6月懇話会

「Yanmar 100周年と私」

大石 則忠氏講演を聴いて

会員 水谷 裕一



(水谷氏)

旧国鉄の大阪駅から京都方面に出てすぐ左側のビルに、東京駅・八重洲口の真正面のビルに深紅で大きな字で書かれたYANMARというロゴがひと際目だった。

TVの「ヤン坊マッ坊天気

予報」は、よく耳にしていた。私は浪速っ子なので子供の頃から大阪の優良会社だと知っていたし、誇りのようなものを感じていた。今も、大阪の非上場の御三家、サントリー、竹中工務店と並んで当社はその一角を占めている。しかし実際、どんな会社かは知らなかった。実社会に入ってから、門外漢には、当社に関する情報は多くはなかった。そんな中、本懇話を知って、直ちに参加を申し込んだ。この度は、当社の創立以来100年間、創業発起人の父上とご本人を合わせて全期間にわたり関わって来られた大石氏から直接お話を伺う事が出来た。

1912年山岡発動機製作所が大阪で創業。ガスエンジン・ガス吸入エンジンの発売を開始した。その後石油発動機の販売を始め、商標を「ヤンマー」とし、後に社名も商品名と同じにした。秋の実りの象徴トンプの王様と山岡の音韻を踏んで決めたという。

それから順次商品群を追加し、現在、舟艇及び漁船用、建設機械、農業機械、外洋船舶搭載ディーゼル発電機の4群である。船用ディーゼルでは、日本では70%、世界では20%のシェアを持つ。全社では、海外売り上げは総売上の40%を超えている。演者が、技術に軸足を置きながら社のグローバル化を先導してこられた成果とお見受けした。

当社は第一次大戦、第二次大戦の影響を大きく受け、幾度かの危機に見舞われながらも勝ち残って来た。世の中、不安定で先が見えない時こそチャンスに物にしてきた歴史であると大石氏は振り返って述べた。それは誰にでもなし得るものではない、ある心を持ち続けたからである。創業者・山岡孫吉翁が石に刻んだ詞「美しき世界は感謝の心から」に凝縮されている。

その一つの表れが、ドイツとの友好の懸け橋を築く事業である。それは、ドイツのディーゼル家への感謝の念を持ち続けていることを起源とする。その思いの証として、ディーゼル石庭苑のAugsburg市への寄贈、ミュンヘンのドイツ博物館への茶室寄贈、駐日ドイツ大使館、大使公邸への梵鐘寄贈、日独文化協会の設立、オイゲンディーゼル博士ご夫妻の日本招待等々。一体どんな理由でそんなに強い感謝の念が続くのか？ 1932年に翁がLeipzig博覧会でMan社のディーゼルエンジンに出会った。しかし、20馬力と大きく、日本では実用的ではない。1~2馬力のものが必要だと直感し、即、シュルッターミュンヘン社に開発を依頼した。

並行して、日本でも開発を始め、1933年12月に成功した。それが爆発的に普及した。翁が、ディーゼルを見た瞬間に今まで探し求めて来たものに遭遇し、これだと閃いた。それを実際に商品化した物が、後々まで、当社の発展の礎になったと信じ、感謝の念を抱き続けていたのだ。技術提携もしていないし、ディーゼルの名称も商標権の対象とはならないとディーゼル家が明言していたので、金銭的な関係は何もなかった。この点にも翁が打たれたのではないだろうか？

今なお本社を創業の地にとどめ、更に翁の生誕の地に企業の頭脳・中央研究所を設立し、その上ヤンマーミュージアムを建設する事にした（最近の社のHPにあった）。これらも社のルーツに感謝する心そのものである。

「縁に感謝する心」、これはグローバル化時代にも不易だ。ヤンマーの今後の一層のご隆盛を願う。



(大石氏)



(懇話会会場)

当日の資料より

ヤンマーのドイツへの感謝

- ・ディーゼル石庭苑 Augsburg 市への寄贈
- ・ミュンヘンのドイツ博物館への茶室寄贈
(ドイツ市民との民間交流の場として)
- ・駐日大使館、大使公邸への梵鐘寄贈
- ・日独文化協会設立 (京都大学)
- ・オイゲンディーゼル博士夫妻の日本招待

7月例会講演会

「ドイツにおける移民問題の現況」に出席して

会員 松野 義明

私のドイツ、オーストリアとのお付き合いは三期に分けられる。ウィーンに留学して、そのまま研究所勤めをしていた第一期（1957年～1962年）、高速増殖炉の共同研究のためカールスルーエの原子核研究所とウィーンの国際原子力機関に頻繁に出張していた第二期（1970年～2000年）、孫娘と遊ぶために南ドイツの小さな町に足しげく通った第三期（2008年～2012年）である。この長いドイツ、オーストリアとのお付き合いのなかで、第二期後半から第三期にかけて、訪問の回を重ねるごとに、私はドイツの町に何か異変を感じるようになってきた。新市街が近代化の波に乗って目を見張るような変化を遂げるのは、他のヨーロッパの町々でもよく見られることで、さほど珍しいことではないが、新市街のみならず旧市街にも奇妙なエキゾティズムを感じるようになってきたのである。私の中に芽生えた違和感とも云える感情は、頻繁に遭遇するチャドルやヘジャブ姿の集団、どの街角でも目にするケバブの店、道を歩いていると自ら聞こえてくる耳慣れない言語などの視覚的あるいは聴覚的印象に起因する漠としたものだったが、その曖昧な私の違和感に、歴史的、文化論的説明を与え、問題点を明確化して下さったのが7月29日の昔農英明先生のご講演であった。

ドイツは1955年のイタリアとの労働者募集協定締結を皮切りにスペイン、トルコ、ギリシャ、ユーゴスラヴィアなどと労働者募集協定を次々と結んでいった。ドイツが外国人労働者に求めたのは「景気調整弁」としての機能であったので、外国人労働者のドイツ国内滞在は一時的なものしか想定していなかった。しかし、1970年以降は労働者の家族呼び寄せが盛んに行われ、滞在期間も長期化し、事実上、移民化の様相を呈するようになった。その結果、移民人口は1570万人（全人口の19%）に達することになった。同時に、移民の学力不足、学校崩壊、失業問題、統合問題などの難問も続出した。そもそもドイツは移民国家であることを標榜しているわけではないので、外国人政策が存在したものの、移民政策は存在しなかった。2004年になってやっと移民法が成立し、ドイツにいる移民の潜在能力を活用するべく様々な工夫がされ始めたのである。

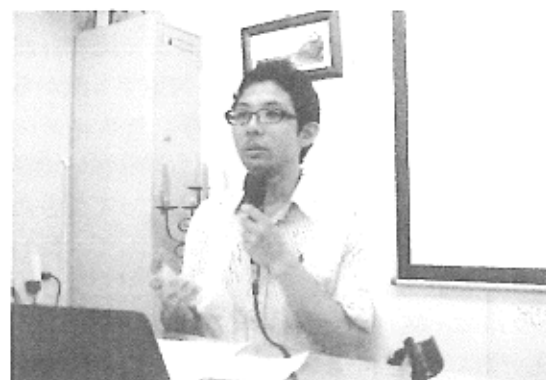
昔農先生は、その工夫がある程度具現している事例の一つとしてノルトライン・ヴェストファーレン州の都市ドゥイスブルグを紹介された。ドゥイスブルグは人口49万人、かつてはルール工業地帯の中核的都市の一つであったが、現在は、70年代の産業構造の転換、基幹産業の衰退に多くの外国人労働者の移民化が重なり、移民の失業率低下、地域社会との交流の停滞、高度人材流出などが原因で目抜き通りに空き店舗が連なるなどの衰退の兆しが色濃く出ていた。同市マルクスロー地域は住民17,500人の約36.6%が外国人で、その70%がトルコ系移民であり、地域の衰退はドゥイスブルグの他の地域と同様に深刻であった。しかし、トルコ人起業協会が設立され、EUや州からの資金援助も受けて、起業相談などが積極的に行われた結果、目抜き通りには宝石店、婚礼衣装などのブライダル産業が立ち並ぶようになった。また、2000年に入ってから、ドゥイスブルグに新しい大規模モスクの建設も行われたが、それに際しては、礼拝施設としての役割ばかりでなく、ドイツ語習得の場、

異文化の相互理解の場、職業教育の場などの機能を付加する工夫もなされている。持続性を含めたその効果は今後の評価に任されている。

現代人は異文化との接触は避けて通ることはできない。だから、異文化を互いに理解し、尊重することが現代人には求められている。異文化が接触したとき、お互いの歩み寄りを拒絶すると当然軋轢が生ずる。誰でも、異なる文化が歩み寄り、それぞれの伝統文化を含む一段高い豊かな文化の構築を理想とし、その実現が望ましいと考えるだろう。しかし、そこに人間の生活に直結する経済活動や教育理念や宗教教義が絡んでくると、そう簡単に理想は実現できない。時には、心理的軋轢が深刻な憎悪に発展する可能性さえ秘めている。この一見解決不可能とも見える問題に対して最適な答えとなる移民政策を醸成しようともがいているのが現在のドイツであると、昔農先生は説かれる。

文化が相異なる二つの人間集団が同一地域で平和に共存できる社会的仕組みを見つけ出す知恵がいまドイツでは求められているのだ。

類似現象が日本でも起こり得る。前例主義がすべてに優先する日本では、「想定外」の現象に遭遇すると関係者は思考停止を起こす。そうならないために、あらかじめ類似現象を「想定」して対策を考えるべきである…とまでは昔農先生は仰らなかったが、ご講演をうかがった私にはそう思えるのである。



(昔農氏)



(例会会場)

★★ 湘南日独協会のホームページ ★★

<http://jdg-shonan.ciao.jp/>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。

「思い出のニューヨーク」

会員 佐合 千佳子

久しぶりに江ノ電に乗り、懐かしい湘南の海を眺めながら・・・

あの4年間は夢だったのかな〜と、つい先日まで住んでいたのに遠い思い出になりつつあるニューヨークを思い返していた。

摩天楼に囲まれたニューヨークは活気があり、とても刺激的な街である。「ニューヨークは人種の坩堝」と云われているが、正にその通り。行き交う人々の肌の色、髪の色もさまざまである。街中で耳にする言葉も、英語ばかりでなく、スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語等々…様々な国の言葉が飛び交っている。

ニューヨークはせっかちなのか歩くスピードが速く、交差点では歩行者用の信号がたとえ赤であっても平気で渡ってしまう。車(タクシー)の運転の荒い人が多く、クラクションやサイレンの音が始終鳴り響き、地下鉄は24時間(夜中も)走っていて、眠らない街マンハッタン。

世界経済の首都ニューヨークには、その莫大なる富みを象徴するように数多くの美術館・博物館・コンサートホール・劇場が点在する。

そんなNYの街に慣れてきて、「私もひょっとしてニューヨーク？」と思い始めていた頃、あるアメリカ人に言われた。「NYを知っても本当のアメリカを知ったことにはならないよ」と。アメリカの国土はとてつもなく広い。

滞在中にヨセミテ、イエローストーン、グランドキャニオン等の国立公園を訪れたが、その地平線まで続く自然のスケールの大きさに圧倒される。何万年、何億年も前から続く地球の歴史があって、今の地球がある事、モニュメントバレーやアンテロープキャニオンも、とても興味深い地形である。こんなにも面白く不思議な地形がどうやってできたのかな…と、その神秘的な大自然を目のあたりにして、暫し感慨に浸ってしまった。

あつ、もう由比ヶ浜。NYで食べたステーキとワインも美味しかったが、やはり日本に帰ってきて嬉しいのは和食が美味しい事。さあ、きょうの夕食は美味しいお寿司と焼き魚と冷酒にしようかな…

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

♪♪ コンサートのご案内 ♪♪

湘南アマデウス合唱団・合奏団第14回定期演奏会

2012.10.20(土) 14:00 (開場 13:30)

藤沢市民会館大ホール

曲目

シューベルト 交響曲第8番 ロ短調 ”未完成”

モーツァルト キリエ KV341

クレド ミサ KV260 他

独唱 小島三恵子 城守香 梶井龍太郎 清水良一

指揮 田部井剛 堀部隆二

チケット 1,000円 (全席自由)

お問い合わせ

赤羽根 0466-26-2794 樋口 0463-71-1507

湘南男声合唱団25周年記念演奏会

2012.11.4(日) 14:00 (開場 13:30)

藤沢市民会館大ホール

曲目

北政の宗教曲(Ave Maria 他)

おらしょ(カクレキリシタン3つの歌)

青い照明(宮沢賢治作詞 清水脩作曲)

MUSICALS(Tonight Memory 他)

指揮 伊集院俊光 ピアノ 水野玲子

チケット 1,000円 (全席自由)

お問い合わせ

渡邊 0466-043-4093 岩瀬 0466-43-0227

ドイツ旅行案内

2013年は湘南日独協会設立15周年を迎えます。記念行事の一つとして旧東ドイツ地域を中心に旅行を計画しています。多くの皆様のご参加を希望しています。

日程概要 2013年5月

21日(火) 羽田発 早朝Frankfurt着

BusでEisenach経由 Weimar 泊

22日(水) ワイマール独日協会との交流会

Jena経由 Dresden 泊

23日(木) Elbe-Schweizとエルベ遊覧船

夜はオペラまたはコンサート Dresden 泊

24日(金) マイセン工場、ワイマール城見学

Cottbusで交流会、Spreewaldを経て Berlin 泊

25日(土) Potsdam, Berlinの名所見学

交流会、オペラまたはコンサート Berlin 泊

26日(日) Finow(運河) Bruno Taut兄弟記念墓、

Ruegen島へ Sassnitz 泊

27日(月)「白亜の絶壁」を船と地上から見る

Rostock, Molli 鉄道乗車 Kuehlungsborn 泊

28日(火) Luebeck (Tomas Mann旧家)、Schiffer-

Club(昼食) 後HamburgまたはFrankfurtへ

29日(水) Frankfurt発 30日(木) 羽田着

なお、秋にはワイマール独日協会の会員が来日し

当協会の15周年を一緒に祝う行事も計画されています。詳細は決定次第お知らせ致します。

編集後記

恒例のオクトーバーフェストも近づきました。担当理事も準備に多忙です。皆さん楽しみましょう。

多くの会員が音楽活動をしております。今回は二つのコンサートをご紹介しました。身近な方々の演奏会へお出かけ下さい。来年5月は合唱団アムゼルの記念音楽会も予定しています。

ニューヨークから帰国された佐合千佳子さんから「思い出のニューヨーク」のご寄稿を頂きました。内容は自由です、皆さんのご寄稿をお待ちしています。

(大久保)